



病院ホームページ



Facebook



循環器内科 カテーテル治療の様子

【特集1】 診療科クローズアップ 循環器内科

【特集2】 12 誘導心電図伝送システムを活用しています！

Vol.62

基本理念：「わたしたちは、いのちと健康、尊厳を守るため、より良い医療を目指します」

基本方針：「患者さま中心の医療」「良質な医療の提供」「地域医療機関との連携」「救急医療の充実」
「災害時の救護活動」「原子力災害対応機能の充実」「健全な経営の維持」





循環器内科部長
阪本 貴之

循環器内科について

循環器内科では、狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患、心臓の弁の異常といった弁膜症、心臓の筋肉の異常である心筋症、脈の乱れや心拍数が速くなる（頻脈）あるいは遅くなる（徐脈）といった不整脈、下肢動脈の狭窄や閉塞といった下肢閉塞性動脈疾患を主に診療を行っております。また、心不全・動脈硬化に関わる高血圧症、脂質異常症、糖尿病、睡眠時無呼吸症候群、心臓リハビリテーションなどの診療も行っております。日本循環器学会認定専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設に認定され、福島県立医科大学循環器内科および心臓血管外科とも連携を取って診療にあたっております。

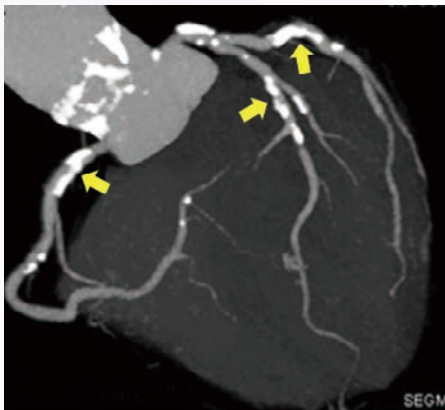
今回の特集では、狭心症に対するカテーテル治療の中でも石灰化病変の治療について触れたいと思います。

カテーテル治療について

動脈の壁が厚くなり、硬くなることを動脈硬化といいます。心臓を養っている動脈（＝冠動脈）に動脈硬化が起こり進行すると、血管内腔が狭くなり狭心症を呈します。カテーテル治療では狭くなったところをバルーン*1で拡張し、冠動脈ステント*2を留置し血流の回復を図ります。しかしながら、治療を要する動脈硬化病変の中にはバルーンで拡張できない硬い病変が数%ほどあります。それはカルシウムの沈着している石灰化病変（図1）で、厚さがおおよそ0.5mm以上となった石灰化病変は、バルーンでの拡張が困難といわれています。そのような石灰化病変に対しての治療デバイスが近年様々な施設で使用できるようになり、当科でも高度な石灰化病変に対して慎重に、かつ安全に使用し良好な治療成績を挙げております。

- *1：血管を内側から拡げるために使う医療用風船を用いた医療器具
- *2：血管が狭まらないようにするために使う金属製の筒状の医療器具

冠動脈 CT



血管内超音波

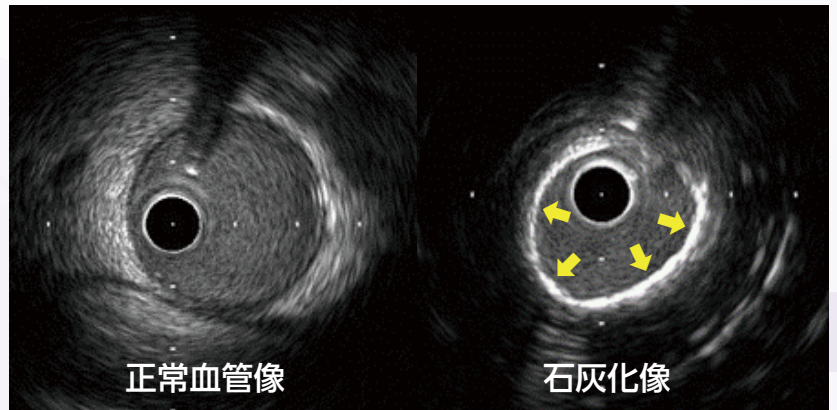


図1：白く描出されているところが血管の石灰化病変（黄色矢印）

石灰化病変の治療について

石灰化病変の治療デバイスとしては以下の3種類があります。

①ロータブレーター (Rotablator ; Boston Scientific 社) (図2)

先端にダイヤモンド粒子が埋め込まれた小さな金属製のドリル(バー)を使用します。このドリルが1分間に約18万回転という超高速で回転し、冠動脈内の石灰化した部分を削り取ります。

②ダイヤモンドバック (Diamondback360 ; Abbott 社) (図3)

カテーテルの先端付近にダイヤモンドでコーティングされたクラウンと呼ばれる部分があり、このクラウンが1分間に約8万回転もしくは約12万回転という高速回転することで、冠動脈内の石灰化した部分を削り取ります。

③冠動脈 IVL システム (Shockwave ; Shockwave Medical 社) (図4)

石灰化のある箇所小さなバルーンを挿入し膨らませて、バルーンの内部より衝撃波を発生させます。衝撃波による小さな割れを石灰化部分に入れることにより、バルーン拡張を可能にします。

これらの治療デバイスを病変に合わせて選択し石灰化病変への治療を行っています。カテーテル治療の歴史は長く、1977年に世界初のバルーン拡張術が行われて以来50年弱が経ちます。その間様々な進歩を遂げ現在に至ります。当科では新たなデバイスを導入するなど日々アップデートされる知識や技術で治療を行えるよう、研鑽を積み地域医療に貢献していきたいと考えております。循環器疾患でご心配なことがありましたら、当院の受診をぜひご検討ください。

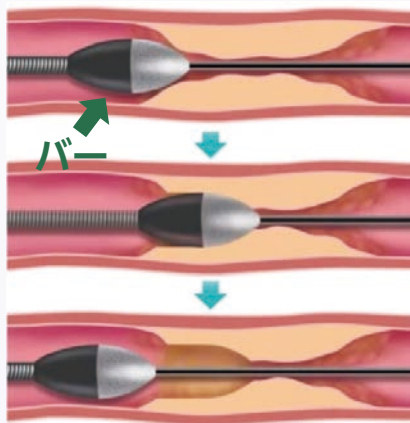


図2 : Rotablator

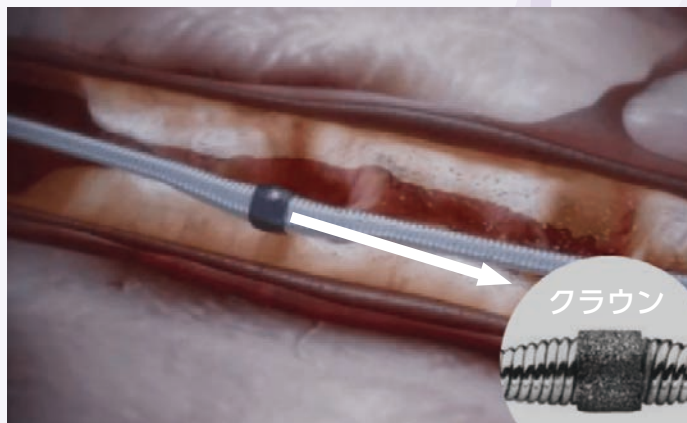


図3 : Diamondback360

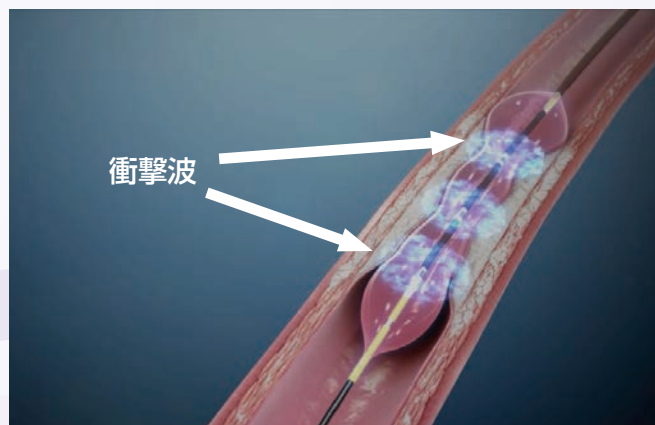


図4 : Shockwave



IVR センタースタッフ集合写真

災害救護活動記録

11/23-24

令和6年度福島県 DMAT 隊員養成研修

福島県における災害医療支援体制の拡充を図るため、福島 DMAT*隊員を養成するための研修が、福島県立医科大学福島駅前キャンパスで開催されました。

研修には、1チーム5名（医師1名、看護師2名、診療放射線技師1名、事務職1名）が参加しました。また、講師として、福島県支部職員1名および当院職員2名の計3名が携わりました。

本研修では、DMATの活動に必要な災害時の情報通信、安全管理、傷病者の観察手順、現場救護所での診療、患者記録の作成などの様々な実習や机上演習が行われました。また、2日目には、実働訓練さながらの総合演習が実施され、現場救護所での診療演習や多数傷病者の病院受け入れ演習が実施されました。

研修を修了した受講者は、福島 DMAT 隊員として登録され、災害時に県内での医療救護活動や患者搬送、病院支援など多岐にわたる支援活動に従事することとなります。

*災害派遣医療チーム：大規模な災害や事故の際、迅速に出勤し医療活動を行うチーム。



情報通信演習



救護所での診療演習



クリスマスコンサートを開催しました



12月24日のクリスマスイブに、【福島の病院にピアノと音楽を届けたい】実行委員会様によるクリスマスコンサートが開催され、患者さまと職員、地域住民の方が参加しました。

同団体は“東日本大震災の被害を受けた福島の復興支援”として、県内の病院にピアノを寄贈し、コンサートを開催する活動をしています。

『クリスマス・オラトリオ』『見上げてごらん夜の星を』など、クリスマスにちなんだ曲やクラシックの名曲を演奏していただきました。

また、福島市が古閑裕而生誕の地であることから、演奏者の方のご厚意で当初の予定を変更し『長崎の鐘』『NHK ラジオ ひるのいこい テーマ曲』『栄冠は君に輝く』から成る“古閑裕而メドレー”も演奏されました。

ピアノとチェロが奏でる美しい音色と美しい歌声により、参加者にとって特別な癒しのひと時になりました。

次回も皆さまと素敵な時間を過ごせることを楽しみにしております。



新任医師紹介

腎臓内科



さとう たかあき
佐藤 孝紀

出身大学

福島県立医科大学
平成31年卒

専門とするもの

腎臓内科

所属学会

日本内科学会 日本腎臓学会
日本透析医学会

メッセージ

福島市の腎臓病診療に貢献できるように努めますので、よろしくお願いいたします。

福島赤十字病院 登録医師・医療機関のご紹介

*医療連携にご協力いただいている医療機関を順次ご紹介いたします。

医療法人 高野医院 内科 消化器内科

■病院長 高野 真 先生

～高野先生からのメッセージ～

いつも大変お世話になっております。当院は内科診療（特に消化器疾患）をしており、開院以来地域の方が安心して受診できるクリニックを目指し奮闘中です。日常の診療をしていますと当院では対応困難な方も受診されますが、福島赤十字病院の先生方・スタッフの皆様には、診療科問わず休日も含め急なお願いをいつも快諾していただき大変感謝しております。

今後とも迷惑をおかけすることと思いますが何卒よろしく願いいたします。



クリニック
ホームページ▶



《診療科》
内科・消化器内科
《住所》
〒960-0241
福島市笹谷字寺町14-3
《電話》
024-573-9863
《休診日》
日曜日、祝祭日は休診

受付午前9:00～午後17:00
午前9:00～11:30
(新患の方は11:00まで)
午後14:00～17:00

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後	14:00～17:30	○	○	○	×	○	×	×

おおたけ内科・循環器クリニック

■病院長 大竹 秀樹 先生

～大竹先生からのメッセージ～

当院は福島市内地区にある内科のクリニックです。

循環器疾患をはじめ、その原因となる生活習慣病、かぜ・胃腸炎など内科全般を診療しております。

地域の皆様の「かかりつけ医」として「話しやすい優しいクリニック」をモットーにスタッフ一同、患者様に寄り添った診療を心がけております。

福島赤十字病院様には循環器内科の先生方をはじめ、各科の先生方に救急対応も含め、数多くの患者様を受け入れていただき、心より感謝申し上げます。

微力ながら地域医療の発展に貢献できるよう努めてまいりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



クリニック
ホームページ▶



《診療科》
一般内科・循環器専門・
生活習慣病外来
《住所》
〒960-0103
福島市本内字東町5-1
《電話》
024-573-1127
《休診日》
日曜日・祝日・第4木曜日

受付時間
8:45～12:00、14:15～17:30

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	9:00～12:30	○	○	○	○*	○	○	×
午後	14:30～18:00	○	○	○	×	○	×	×

*第4木曜日は休診

12誘導心電図伝送システムを 活用しています!

■12誘導心電図とは？

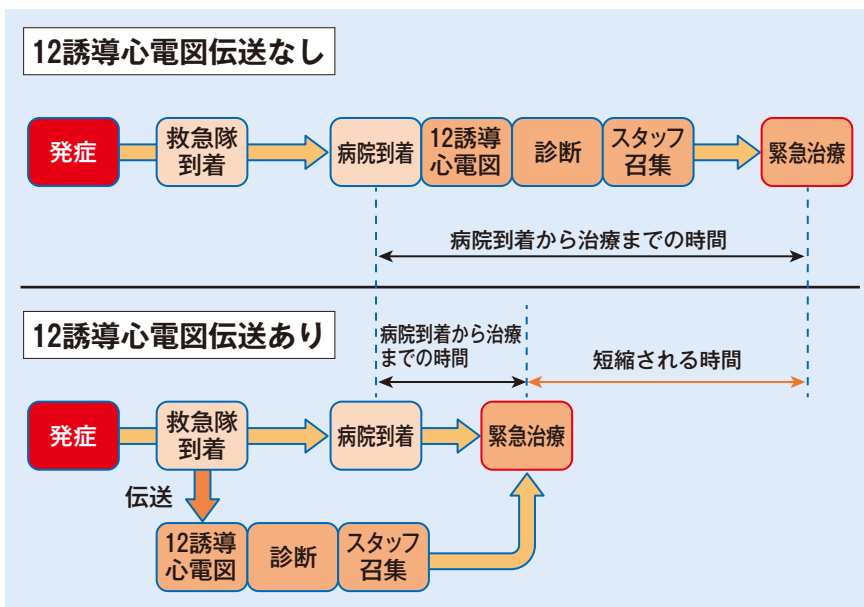
定期健康診断などでも実施される検査で、四肢と胸部に計10個の電極を装着し、心臓の電気活動を12の波で詳細に記録する心電図です。救急の現場では、心筋梗塞や狭心症の診断に大変有効です。

■12誘導心電図伝送システムとは？

モバイル心電計を用いて、急性心筋梗塞などの患者さまの心電図データを救急現場で取得し、クラウド上に伝送することで、瞬時に病院にいる医師に心電図情報が届くことを可能とするシステムです。現在、福島市の全ての救急車に搭載されています。

従来、12誘導心電図は患者さまが病院に到着してから実施されるものでしたが、システム導入により病院到着前に医師が心電図診断することが可能になり、到着までに治療の準備を行い治療開始までの時間を短縮させることができます。特に急性心筋梗塞においては、治療開始までの時間短縮により、救命率向上に加え、治療後の後遺症を少なくすることで、社会復帰率の向上にも繋がります。

当院では、このシステムを2022年より使用開始し、救急患者さまの治療に活用しています。今後も救急医療の質の向上に尽力し、県北医療に貢献できるよう努めてまいります。



活用のイメージ



実際の端末
(救急外来)